

県外派遣報告書

審判員名	一箭 良枝	所属	クラブ連盟
大会名	Yong Officials' Camp 2014		
期間	平成26年8月8日(金)～10日(日)		
会場	上尾運動公園体育館、上尾市プラザ22会議室		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月8日(金)	実技・講義	上尾運動公園体育館・上尾市プラザ22会議室	
8月9日(土)	実技・講義	上尾運動公園体育館・上尾市プラザ22会議室	
8月10日(日)	実技	上尾運動公園体育館	
会議 講義 内容			
<p>トレーナーの野田拓司氏より、体幹トレーニング、脚力のトレーニングについてご講義いただきました。より説得力のある判定につなげる為に良い姿勢を保つことや、1ゲーム余裕を持って走りきることのできる脚力の必要性について実技も含めてご指導いただきました。</p> <p>規則グループ長の平野彰夫氏より、「ルールについて」ご講義いただきました。シリンダーの考え方を中心にお話があり、判定する上での基本的な考え方について写真や動画を交えながら分かりやすくお話しいただきました。また、より良い位置で判定することの重要性についてもお話しいただきました。</p> <p>平原勇次氏より、審判としての心構えについてご講義いただきました。バスケットボールの技術の理解、選手・コーチの気持ちの理解、コート上で起きていることの理解の3点が、審判としてルールを適用する上で必要であるとお話しがあった。</p> <p>橋本信雄氏より、バスケットボールの世界的な方向性や、良いレフリーを目指すためには具体的な目標を常に持っていることの重要性などについてご講義いただきました。</p>			
実技			
担当試合	期 日	2014/8/9(土)	男子 <input checked="" type="radio"/> 女子
	対戦カード	上尾鷹の台高等学校 VS 柏井高等学校	<input checked="" type="radio"/> 主審 <input type="radio"/> 副審
	相手審判	佐藤安里紗氏(長崎県)	
ミーティング内容		主任	小坂井郁子氏(神奈川県)
<p>プレッシャーをかけるディフェンスの見方、特に、3番エリアをどのように見るかがポイントとなるゲームだった。3番エリアの見方について、近づいて見に行くことも重要であるが、3番エリアだけを注視するのではなく、1番エリアからのカットインにも視野を残しておくことで、次のプレイへの準備ができるとご指導をいただいた。また、リードの動きについて、1対1の最初のスペースは捉えられているが、次にドライブやピボット等で面が変わった時にブラインドになっている。ディフェンスがオフェンスの後ろに回るケースや、頑張っって前に回り込むケース、フィニッシュで面が変わるケースなど、広がって見たり、その場に留まって見たり、右へ移動して見たりケースによってスペースの見える位置が変わる。より良いスペースを求めて動くことが重要であるとお話しいただいた。また、「ディフェンスを見る」とのアドバイスをいただき、実践した結果、次のプレイの予測がしやすくなり、スペースが見えたという実感があった。</p>			

実技				
担当試合	期 日	8月9日(日)		男子 <input checked="" type="radio"/> 女子
	対戦カード	上尾鷹の台高等学校	VS	豊島高等学校
	相手審判	黒滝悠奈氏(青森県)		
ミーティング内容		主任 関口知之氏(東京都)		
<p>2人の協力についてご指導いただいた。例えば、リードから見て左サイドラインのアウトオブバウンズはリードの責任だが、3番エリアのラストタッチが見えているのはトレイルであるため、トレイルが協力する必要がある。また、トレイルがミドルを越えて見に行くことはリスクがある。ディフェンスのカットからの速攻に巻き込まれることのないよう、ディフェンスの動きを予測しておく必要がある。2人の協力という点では、リードが下へ下がっていることを確認した上でミドルを越えるというように、視野の分担についてもご指導いただいた。プレカンファレンスでは、このように細かい部分にまで打ち合わせをしておく必要がある。</p>				
実技				
担当試合	期 日	8月10日(日)		男子 <input checked="" type="radio"/> 女子
	対戦カード	上尾鷹の台高等学校	VS	鴻巣高等学校
	相手審判	平山智章氏(栃木県)	田添友祐氏(沖縄県)	
ミーティング内容		主任 岩田千奈美氏(東京都)		
<p>ゲームの運営について、ゲームをスムーズに進めることも審判としての役割である。スリーパーソンでメカニックの戸惑いもあったかもしれないが、フリースローのときなどに、まず審判が素早く位置につくことが大切である。プレイヤーが分かっていないのであれば、声をかけることも必要である。また、ゲームとして取り上げる必要があるのかどうかを見極めた上で判定をしていくことも必要である。</p>				
全体の感想				
<p>講義を通して学んだシリンダーについての考え方をゲームで実践できたことや、講師よりご指導いただいたことをすぐに実践できたことにより、今まで見えていなかったスペースが「見えた」と実感できたケースが多くあった。今後もより良いスペースを捉え、正しい判定をすることを1試合1試合繰り返していきたい。今回、全国の同年代の審判員と3日間を過ごし、大きな刺激を受けることができた。このたび、このような貴重な機会をくださいました日本協会の皆様、埼玉県協会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>				